

福岡県教協 第76次教育研究活動を充実させよう！

福岡県教職員組合連絡協議会（県教協）は「教え子を再び戦場に送るな」の不滅のスローガンを掲げ、「平和・人権・環境・共生」を基底にすえながら、教育研究活動にとりくんでいる。そして、今次のとりくみの重点は『教研への参加者とレポート報告数を増やそう』である。

25年3月の県教協委員会で決定された方針を踏まえ、7月4日に第1回教研専門委員会を開催し、以下のように分科会ごとに大切にしたいこと（アピール）をまとめた。それぞれの分科会が重視している視点を大切にして、日常の教研活動にいかしていこう。

福岡県

教育新聞

福岡市東区馬出4丁目12番22号

福岡県教職員組合

TEL (092) 631-4611

編集発行責任者／西田泰章

福教組ホームページ

<http://ftu-net.jp>

① 日本語教育 分科会

SNSの発達により、子どもたちは短い文しか読まなかったり、相手の気持ちを考えず自分の考えを発信したりすることが多く見受けられます。こうした言語環境の中で、文学作品を深く豊かに読み、生活の事実を記述して読み合う授業を展開することが重要です。これにより、読む力・表現力・認識力を総合的に高めることを目標とします。実践例を互いに持ち寄り、議論を通じて学び合う場を創出しましょう。

② 外国語教育 分科会

「外国語」って「英語」だけ？英語が「できる」だけでいいの？子どもたちが外国語の学習を通して、お互いのことを知っていく授業づくりをしてみませんか。ことばの面白さなどが体験できる活動づくりをしてみませんか。小中連携などを含めて、小学校・中学校などの校種関係なく、さまざまな実践や悩みなどを持ち寄り、「外国語教育の四目的」に根ざした授業をとともに考えましょう。

③ 社会科教育 分科会

誰もが生き生きと暮らせる平和で民主的な社会を築いていくためには、人権侵害などの社会の課題を見抜き、その課題を解決する手立てと解決する力をもつ子どもの育成が重要です。目の前の子どもたちを中心に据えた授業実践をもちより、子どもたちの豊かな学びの実現において学び合いましょう。

④ 数学教育 分科会

数学教育分科会では、「本質から目を離さずに創り出す実践」をテーマに学び合います。AI時代を生きる子どもたちには、AIを活用するだけでなく、自分で考え、判断し、表現する力を育てることが大切です。①子どものつまづきや認識の誤りの原因、②教科書通りにやってみただけ、③それをどのようにな手立てで解決していくかなど、日々の授業実践を交流し、学び合います。レポートは一枚でも、レポートがなくてもかまいません。悩みや試行錯誤を持ち寄り、ともに学び合いましょう。明日からの授業がもっと楽しくなるヒントが、きっと見つかります。

⑤ 理科教育 分科会

「理科の授業は大変」と小学校の教員の話をよく聞きます。「この実験は、どうしたらうまくいくかな」と中学校の教員のつぶやきが聞こえます。理科分科会ではたくさんの実践や実験・観察が報告されます。授業のアイデアや方策があふれています。「なるほどな。」と理科の実践への意欲がきつと沸いてきます。また、気候危機、福島原発事故のその後、原発とエネルギー問題、地元の活動層など今まさにホットな問題も科学的な見地から考え、議論しましょう。

⑥ 美術教育 分科会

変化の激しい社会・教育の情勢の中で揺れ動く児童生徒の内面は、「わくわく楽しい授業」自己表現が認め合える場」を求めています。美術教育を通して、美しいものを美しいと感じる感性を培い、人と人をつなぐ、心と心をつなぐ教育を実現するために、



⑦ 音楽教育 分科会

音楽教育分科会では、子どもたちが安心してのびのびと自己表現する中で、内面を耕し人と人をつなぎ、心を豊かにすることをめざしています。子どもたちの背景を理解し、豊かな表現をひきだすために、子どもたちの生き生きとした姿が見えるような実践を持ち寄り、学びを深め合いましょう。

⑧ 生産技術教育 分科会

75次県教研では「材料と加工」「生物育成」「エネルギー変換」「情報」に関する多様なレポートが4本報告されました。各地における地道な実践を大切に、若い世代をはじめ、小学校や臨時免許の教職員、特別支援学校からも参加していただき、悩みや苦労話を出し合いながら組織の拡大・強化をめざし、県教研活動を盛り上げていきましょう。



⑨家庭科教育 分科会

この分科会では、「私たちは、なぜ家庭科を教える？」など、根本的な疑問を大事にしながら協議します。その中で、家庭科教育が子どもたちの未来にいかに必要な教科であるかとともに、内容の奥の深さ、視点の大事さが見えてきます。若い方を誘って、レポートを持ち寄りましょう。

⑩保健体育 分科会

私たちは保健体育という教科を通して、子どもたちに何を学ばせたいのか、そして一人ひとりが輝くために何が必要なのかを考え、自主編成のとりくみを再構築していく必要があります。「なかまづくり」の視点を大切にしながら、脈々と引き継がれてきた教科研育のとりくみをこれからともに進めていきたいと思います。福教組全支部・両市教組からの参加で熱く盛り上がりましょう。

⑪学校保健 分科会

自分たちのとりくみをふりかえり、子どもの健康にかかわるさまざまな問題(感染症・集団食物中毒・洗口・健康診断・医薬品預かりなど)から、学校保健をどう推進するのか考えていきます。子どもたちの未来のために多くの人とつながり、県内各支部・市教組のとりくみから学び、語り合い、実践へとつなげていきたいと思います。

⑫子どもの自主活動と 自主的諸活動 分科会

これからは
どうなるの?
もんだい山積み!
のびのびできない!
じっくりと時間をかけて
しゅうだんづくりを
かんがえ 悩み 交流して
つなげて
どきゅんたリーを
うみだそう!

⑬総合学習・生活科・ 教育課程と評価 分科会

教科・領域の枠を超えて教育の本質にかかわる深い論議を重ねている分科会です。「わたしたち自身の学びを深める」ことにこだわっています。全国教研では、「総合学習と防災・減災教育」「子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育」と「カリキュラムづくりと評価」分科会とつながっていて、分科会名に入っていない「食教育」や「道徳」についても実践交流をしています。どんなレポートでも受け入れることができます。分科会です。レポートお待ちしています。

⑭平和教育 分科会

人権の世紀といわれる21世紀になって、30年が経とうとしているが、人権や平和を取り巻く状況は、厳しさを増すばかりです。ロシアのウクライナ侵攻から5年、イスラエルのガザへの侵攻、アメリカの

イランへの攻撃などが、より多くの人たちに影響を与え、益々戦争の危機を身近に感じるようになり、また、それに乗じて、日本政府は、防衛費の増額や武器輸出三原則の見直しなど、着々と軍事強化を進めています。また、辺野古沖転覆事故をきっかけに、文科大臣はその教育活動が教育基本法違反と、初の認定をしました。

わたしたちは、今こそ現状を子どもたちともに学び、平和につながる実践を積み上げていなければなりません。未来を創る教育として、『平和教育』の更なる広がりへと深化につながる実践やとりくみを第76次教研で持ち寄り、議論しましょう。

⑮ジェンダー平等を めざす教育 分科会

70年代に女性の人権確立をめざし「女子教育もんだい」としてとりくみが始まりました。現在は、性別に関わらず全ての人の人権確立のために①経済的②生活的③精神的④性的の四つの自立の力をつけることを目的としています。だれもが個性と能力を発揮し、多様性が尊重される社会をめざす教育実践を進めていきたいと思います。

⑯「しょうがい」児教育 分科会

当事者の思いを受け、「共に生き、共に学ぶ」という目標を見失うことなく、子どもたちのなかに豊かな関係性を創り出したい。

「特別支援学校」「特別支援学級」の在籍児童生徒の増加等についても、私たちの現場から本音や悩みをもっと出し合ひましょう。「支援」という文言についても議論しましょう。

⑰人権教育 分科会

「人権教育」分科会は、部落問題をはじめとする様々な人権問題に対し、子どもの事実と実態から出発したとりくみを交流しています。仲間と学びを共有することで、世代交代の課題の解決にも資するものになっています。自らの立ち位置と実践を振り返り、論議を通じて、自らの教育活動に生かしていく分科会にしていきましょう。

⑱教育条件整備の運動 分科会

教育条件整備の運動分科会では、「就学・修学保障」をはじめ「学校の安全確保」「子どもの貧困」「学校の超多忙化」等、今最も問われているテーマに関わって論議を繰り広げます。教育条件整備の運動を広げるために、様々な立場・職種の観点からのレポート報告やご意見を待っています。

⑲民主的な職場・学校づくり と地域連携 分科会

本年度話し合われる内容として以下の内容を期待します。《超勤・多忙化が常態化している学校現場の実態と、それに抗する

「働き方改革」のとりくみ《組織拡大・強化のとりくみ》《学校規模を生かして地域と連携する教育実践》《一人の保護者・地域とつながることから始める「語る会運動」のとりくみ》《各自自治体におけるICT教育の実態》

立派なとりくみ報告でなく、構いません。職場における悩みやちよとした実践を持ち寄りましょう。保護者・地域と連携し、平和憲法と民主教育を守る原点に立ち返り、今次教研をその第一歩としましょう。

教研への参加者と
レポート報告数を
増やそう!

